

地域デジタル人材が活躍する
共創のまちづくり

塩尻市は、日本のほぼ中央に位置し、古くから南北と東西の街道が交差する交通の要衝であり、北アルプス、鉢盛連峰、さらには中央アルプスの山並みを背景に田園風景が広がる、清浄な水と緑に囲まれた歴史あるふるさとです。

特産のブドウが生み出すワインは世界にその名を知られ、中山道奈良井宿の町並みや木曾漆器が歴史と伝統を感じさせるまちでもあります。

誰もが働ける社会を
目指すKADO

本市が推進する平成22年から始めた自営型テレワーク推進事業「KADO」。家で働くことを「家働」と書いて「カドー」と読ませたところからこの名称が付けました。



授業で端末の操作をレクチャーする様子

KADOは、本市の100%出^{えん} 捐により設立された一般財団法人塩尻市振興公社が行っている事業で、子育てや介護、自身の障がいなどを理由に、就労に時間的な制約のある人が「好きな時間に好きなだけ安心して働ける場」を提供しています。

KADOでは、企業や自治体などから業務を受注し、スタッフが業務を細分化した上、登録者（テレワーカー）へ業務を委託しています。テレワーカーは業務をチームで行うため、自分のライフスタイルに合わせて、KADOオフィスや自宅でのテレワークなど、自分の好きな場所、好きな時間に働くことができます。KADOが受注している主な業務は、企業の総務業務、データ入力などのバックオフィス業務のほか、自治体からのアウトソーシング業務です。特徴的な取り組みとしては、小・中学校において端末の設定や教員・子どもに対して授業のフォローなどを行うGIGAスクールサポーターを全小・中学校



KADOオフィス

に配置していますが、その役割をKADOのテレワーカーが担当しています。教員の悩みへの対応や「こういう授業をしたい」という要望に対して、適切な提案を迅速に行っており、テレワーカーの皆さまが地域のデジタル人材として地域の困り事を解決するモデル的な取り組みに成長しています。現在では300人以上の方が仕



自動運転車両

日本最先端の自動運転実証

事を行っており、就労のセーフティーネットとしての役割を一定程度達成できました。さらに、発注元企業による現地社員採用が生まれるほか、KADOのクライアント企業が単なる業務発注にとどまらず、DX推進のパートナーとして先進的な事業を展開していくという良い波及効果が生まれています。

KADOにおいて、自動運転車両の制御に使用する高精度3次元

地図を作製していたことがきっかけで令和2年に始まったのが、自動運転実用化に向けた官民連携による実証プロジェクトです。

これからの超高齢社会において、すでに顕在化している運転手不足などの公共交通が抱える課題を解決し、高齢者や学生を中心とした交通弱者の生活を守るためには、将来にわたって持続可能な地域交通を構築することが必要不可欠です。そのため本市では、地方都市における公共交通の利便性向上と、自家用車から公共交通への転換による交通事故の低減を目指し、令和2年度から自動運転およびAI活用型オンデマンドバスを含むMaas実証実験を実施してきました。

自動運転は、関連企業、大学などと共に塩尻自動運転コンソーシアムを設立し、令和7年度に市内市街地の生活道路において自動運転レベル4を含む自動運転サービスを社会実装することを目指して、継続的な走行実証を行っています。自動運転技術の高度化は企業の役割が大きいです。ただ、それだけでは実用化とはいえません。本市では、地元交通事業者による運行体

制を構築するとともに、KADOを通じて地元住民の方が3次元地図の作製や自動運転車両のシステムオペレーションを担うなど、地元人材で運用可能な仕組みづくりを進めています。また、地元の小・中学校、高校と連携した出前講座や試乗会を実施し、次世代を担う若者が先端技術に触れる機会の創出と自動運転への理解や認知度向上にも力を入れています。

プロフィール

- ◆ 面積 289.98 km²
- ◆ 人口 6万5710人
- ◆ 世帯数 2万8859世帯

〔将来都市像〕多彩な暮らし、叶えるまち。―田園都市しおじり―

〔まちの特徴〕日本のほぼ中央に位置する交通の要衝であり、日本アルプスの山並みを背景にした田園都市

〔市町村合併〕平成17年4月1日、塩尻市、檜川村の2市村が合併



塩尻市長
百瀬 敬



〔特産品〕ブドウ、ワイン、レタス、木曾漆器

〔観光〕奈良井宿、平出遺跡、八ヶ岳中信高原国定公園高ボッチ高原、ワイナリー

〔イベント〕ワイナリーフェスタ、木曾漆器祭・奈良井宿場祭、玄蕃まつり、高ボッチ高原観光草競馬大会、小坂田公園納涼花火大会

「多彩な暮らし、叶えるまち。」

令和6年度からは第六次塩尻市総合計画がスタートします。新たな都市像「多彩な暮らし、叶えるまち。―田園都市しおじり―」を目指し、本市が長年培ってきたチャレンジ精神を絶やすことなく、市民の皆さまをはじめ本市に関わる多様な方々との共創により、未来への投資を行ってまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

官民共創で「ひと・まちが輝き 未来へつなぐまち」を目指す

座間市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、湧水が豊富で、旧石器時代から人々が住み始めました。

昭和46年11月1日に神奈川県内17番目の市として誕生し、令和3年に市制施行50周年を迎えました。コンパクトな市域ながらも、



55万本のヒマワリ

豊かな緑や自然、豊富な地下水に恵まれ、歴史や文化、各種産業と、ものづくりの技術、大型商業施設など、バランスの取れた暮らしやすさ、素晴らしい多様性を有しています。また、市域面積の3・2%をキャンプ座間が占め



江戸時代から続く100量数の「大風揚げ」

ており、在日米陸軍司令部と陸上自衛隊が一部共同使用しています。米国の独立記念日や、夏の盆踊りなどのイベント以外にも、小学校間や子どもたちの交流事業も行い、日頃から顔の見える関係で日米交流を図り、災害時の連携強化にもつなげています。



LINE操作画面

これまで基本的に申し込み制で戸別収集していた剪定枝は、申し込みの手間などから可燃ごみとして集積所へ排出されてしまう実態があ

デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進 スマートで優しい行政サービスだけでなく、職員がやりがいをもって自分らしく働ける体制を目指し、令和5年に座間市DX推進計画を策定しました。その一環として、市民のライフスタイルが多様化していることや、庁舎窓口の混雑緩和、業務改善、ペーパーレス化、感染症などへの対応として、非来庁型市役所を目指すこととなりました。それを実現するためのツールの一つと

サーキュラー・エコノミー推進の取り組み

本市では、令和元年に「サーキュラー・エコノミー推進に係る連携と協力に関する協定」を小田急電鉄株式会社と締結し、令和3年度から、全てのごみ収集車にタブレット端末を搭載することでごみ収集のDX化に取り組みんでおり、これによって大きな効果を上げたのが剪定枝の資源化です。こ



DX収集

「オールリソース宣言」や官民連携の取り組みにより、ミックスペーパーや生ごみなどの家庭系可燃ごみは約1630t減量化することができました。この他にも、令和3年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指した「座間市ゼロカー

り、大部分が焼却処理されて、資源化することが難しい状況にありました。

現在では、可燃ごみを収集するパッカー車が、剪定枝の排出されている集積所の位置情報を搭載しているタブレットから発信し、その集約された情報を基に、剪定枝が排出されている集積所のルートマップが作成され、トラックで効率的に収集ができるようになりました。これによって剪定枝の収集量は、取り組み前の約3倍

(約313t↓約966t)に増加しました。また、「

ボンシテイ宣言」を行うなど、自然との共生を目指した経済活動となるように進めています。

断らない相談支援

「断らない相談支援」を相談支援の中心に据えて、生活困窮者自立支援制度に取り組んでいることも本市の特徴です。

当初は、相談に対する心理的なハードルを下げ、より多くの方に支援へつながっていただくことを目的としました。多様な相談が寄せられることで、既存の制度や事業、市職員だけでは対応できない困り事が顕在化しました。地域の支援者に協力してもらい解決してきたことが、社会資源の開拓や水平的連携体制の構築につながっています。

この連携を強化・整理し、さまざまな事業実施へとつなげ、現在では、相談支援(自立サポート相談)、就労支援、住居確保給付金支給事業の必須事業に加え、就労準備支援、家計改善支援、一時生活支援(地域居住支援を含む)、子ども学習・生活支援、アウトリーチ支援、ひきこもりサポート事業の任意事業を実施しています。各

事業は、事業実施ありきで事業化を進めたのではなく、寄せられた困り事をきっかけに、必要性から事業化してきたところに、断らない相談支援の特徴があります。

「ひと・まちが輝き未来へつなぐ」

令和5年4月から、本市の新たなまちづくりの指針となる「第五次座間市総合計画―ざま未来プラン―」をスタートさせました。人

プロフィール

- ◆ 面積 17・57km²
- ◆ 人口 13万2075人
- ◆ 世帯数 6万2032世帯

〔将来都市像〕ひと・まちが輝き 未来へつなぐ

〔まちの特徴〕水と緑と坂のまち、自然豊かな環境と、都市部の利便性が融合し、寺院や神社、歴史的、文化的な名所があるまち



座間市長
佐藤 弥斗



〔特産品〕ざまみず、どんぶり豆腐、ひまわり焼酎、座間産ひまわり米、座間産地粉うどん、座間納豆、大和芋

〔観光〕市のイベントのほか、座間八景と呼ばれる湧水や公園などの自然環境

〔イベント〕座間市大凧まつり、座間市ひまわりまつり、座間市民ふるさとまつり、座間市民健康マラソン大会

口減少社会を迎える中で、市民一人一人がお互いを尊重し、心豊かに生き生きと笑顔で暮らせるまち、誰もが過ごしやすい、暮らしやすいまち、将来にわたって成長するまちであることを目指すため、目指すまちの姿を「ひと・まちが輝き 未来へつなぐ」としました。

さまざまな社会課題、地域課題がありますが、市民の皆さまと共創で市政運営を進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人が輝き、まちが躍動する、
共生・共創のまちづくり

愛知県の南部中央に位置する西尾市は、海・山・川と豊かな自然に恵まれ、三ヶ根山や三河湾に浮かぶ佐久島を含む一帯は三河湾国定公園に指定されています。

西三河地域の一角を占め、自動車関連産業の発展とともに成長を続ける一方、全国トップクラスの生産量を誇る抹茶（てん茶）やカーネーション、ウナギなど農水産物の生産拠点としても発展し、農商工のバランスの取れた産業を営んでいます。

職員の斬新なアイデアを
事業化

若手・中堅の職員が、既成概念にとらわれない施策や事務改善に関するアイデアを市長に直接提案する「ワクワク西尾創生コンテンツ」を平成30年度から実施してい

ます。職員の創造性を具体的な事業として積極的に反映すること、前例のない取り組みにも果敢にチャレンジできる組織にすることが狙いで、これまでに105件の提案があり、25件以上事業化しています。

事業化したものには、コロナ禍で結婚式を挙げることができなかった夫婦に、市役所議場で西尾ならではの演出により挙式していただく「市役所ウェディング」や、市内の飲食店で気軽に人気の給食メニューを楽しめる「ワクワク給食プロジェクト」、職員の子どもが親の職場を見学・体験できる「子ども参観日」などがあります。

ワクワクするまちづくりのエンジン役として機能するよう、今後組織を挙げて取り組んでまいります。

「にしおマラソン」
開催による交流創出

令和3年4月にスポーツ都市宣言をし、スポーツをまちづくりの核と位置付けた交流創出を図っています。その一環として、愛知県内で唯一、公道を使って男女が参加できるフルマラソン大会「にしおマラソン」を開催しています。

令和4年3月に開催した第1回大会では、全国から3600人以上のランナーにお越しいただき、西尾市を広くPRすることができ



第1回にしおマラソン

ました。

第2回大会の開催を令和6年1月21日に予定しており、城下町の情緒や海岸沿いの絶景など西尾の魅力を感じられるコースと、「一色産うなぎ」をはじめとする特産品をエイドとして振る舞うなど、西尾ならではの「おもてなし」ができるように準備を進めています。

スポーツを楽しむことはもちろん、観光文化資源も体感することができ本市を代表するコンテンツとして、長きにわたり愛される大会に育て上げていきたいと考えています。

「共創」による
地域活性化への取り組み

官と民が連携した「共創」のまちづくりにより、中心市街地にぎわいを創出するとともに、起業を希望する人のチャレンジを後押しすることにも力を入れています。

取り組みの一つとして、西尾駅周辺の公共空間に仮設コンテナ「BOX PARK エキニシ」を設



BOXPARKエキニシ

置し、実店舗を持たない事業者や起業を考える市民の「やりたい」がかなう空間を提供する社会実験を行いました。新たなにぎわいが生まれるとともに、出店時の具体的なイメージを持っていただくこともでき、空き店舗を活用して新たに2店舗がオープンすることにもつながりました。

また、本市が抱える課題を解決する事業の実装を目指すビジネスプランコンテストを本年度から実施します。全国の起業家・スタートアップから募集する一般部門と、高校生から募集する高校生部門があり、一般部門のグランプリには、最大で200万円の賞金贈呈と実装に向けた伴走型の支援を行います。

さらに、中小企業の持続可能な経営や市内での起業、中心市街地

活性化の支援をする機能を併せ持った「西尾未来共創拠点」を設置します。この拠点を中心に、事業者、市民、情報、技術が有機的につながり、さまざまな化学反応が起ることを期待しています。

共生社会実現に向けた居場所づくり

本市では、国籍や障がいの有無、立場や考え方などさまざまな違いがあることを前提に、一人一人が自分に居場所があると感じ、生き生きと暮らしていただける「共生」社会の実現に鋭意取り組んでいます。

そのシンボルとなる施設として、「共生社会実現のため全世代の市民が集う多様な学び・交流の場」



生涯学習センター（仮称）イメージ図

をコンセプトとする「生涯学習センター（仮称）」を令和9年度にオープンする予定です。

この施設には、若者が抱える悩みや問題に対しワンストップで対応する「子ども・若者総合相談センター」「コンパス」、学校などに通うのが困難な児童生徒の復帰を支援する「あゆみ学級」、外国に

「多文化ルームKIBOU」、幅広い年齢層の子どもたちがワクワク感じっぱいで遊べる交流広場などを整備します。

多様な個人が他者と共に学び合い、支え合い、励まし合いながら主体的・持続的に学ぶことができ、施設にすることで、全ての子どもや若者が笑顔で過ごせるまちの実現を目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 161・22km²
- ◆ 人口 17万398人
- ◆ 世帯数 6万8062世帯

〔将来都市像〕もっとワクワクするまちにしお

〔まちの特徴〕海・山・川に囲まれた豊かな自然環境の中で、地域に根ざした多様な文化と農・商・工のバランスのとれた産業が育まれているまち

〔市町村合併〕平成23年4月1日、西尾市、一色町、吉良町、幡豆町の1市3町が合併



西尾市長
中村 健



〔特産品〕西尾の抹茶、一色産うなぎ、三河一色えびせんべい、カーネーション、バラ

〔観光〕西尾市歴史公園、佐久島、東幡豆海岸のトンボ口干潟、岩瀬文庫、華蔵寺、国宝金蓮寺弥陀堂

〔イベント〕西尾祇園祭、三河一色大提灯まつり、ハワイアンフェスティバル、鳥羽の火祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

小林市(宮崎県)

小林市長

宮原義久

わが

市民が元気に笑顔で暮らせる「健幸のまち」を目指して

小林市は南九州の中央に位置し、南西部には霧島連山を有しています。平成18年に須木村、平成22年に野尻町と合併し、現在の小林市となりました。

南九州の陸・空の交通アクセスの要所にあり、二つの空港(宮崎空港・鹿児島空港)も近く、鹿児島県、熊本県の県境付近にありながら、宮崎市まで車で約50分と利便性の高い地域です。市内約70カ所

に湧水があり、その豊富で良質な水によって磨き上げられた農畜産業を基幹産業とする西諸地域の中心市として発展してきました。

日本一おいしい宮崎牛の一大産地

和牛のオリンピックとも呼ばれる5年に1度の全国和牛能力共進会において、宮崎牛は4大会連続で内閣総理大臣賞(日本一)を獲得。その偉業に最も貢献したのが、小林市産の和牛です。特に昨

年の大会で和牛のおいしさを競う「肉牛の部」で内閣総理大臣賞を受賞できたことで小林市は日本一の宮崎牛の産地であることを証明しました。

畜産の振興には、生産者が緊密に連携した施策が欠かせません。目標に向かって一致団結した取り組みにより、宮崎牛の改良の成果や飼育管理技術の向上が常に図られています。さらに、若い生産者が台頭しており、日本一の宮崎牛の未来を担う後継者も着実に育っています。

みんなで魅力をハッシン

本市は、市民や出身者をはじめとした多様な力を合わせて、豊かな地域資源を魅力として発信し、郷土愛の醸成や関係人口増加につながる「ハッシンコバヤシ!!」プロジェクトを展開しています。この「ハッシンコバヤシ!!」プ



吉野さん出演動画の1コマ

ロジエクトの一環として、本市出身で著名な方を「こばやしスペシャルPR大使」として任命し、小林市の魅力発信に協力いただく取り組みを展開しています。

ダンス&ボーカルグループ「THE RAMPAGE」のボーカルの吉野北人さんもスペシャルPR大使の一人で、吉野さんがふるさと小林の魅力を伝える市のPR動画は、公開から約4カ月で2500万回を超えて視聴されています。スマートフォンでの視聴に特化した動画のつくりも功を奏し、X(旧…ツイッター)やインスタグラム、TikTokなどのSNSで広く拡散され、多くのファン



名水百選に選ばれた出の山(いでのやま)湧水



第12回全国和牛能力共進会で優等2席に輝いた小林秀峰高校

年の大会で和牛のおいしさを競う「肉牛の部」で内閣総理大臣賞を受賞できたことで小林市は日本一の宮崎牛の



市内各地で開催されるウォーキングイベント

健幸のまちづくりの推進

の方が「聖地巡礼（ロケ地巡り）」に訪れるなど、効果を実感しています。市内事業者と連携した聖地ラリーやPR動画に市民が役者として出演するなど、地域一体となり作り上げるプロジェクトとなっています。

今後も、小林市を市外・市内両面から盛り上げるプロモーションにより関係人口を増加させ、多くの方に愛され応援されるまちづくりを目指してまいります。

本市は、市民の誰もが健康で生

きがいを持ち幸せに生活できるま

ちを目指して、「健幸のまちづくり」を最重要施策として推進しています。

健康は、個人の幸福度を増大させるだけでなく、社会に対する貢献にもつながるものと考えます。

少子高齢化が進展し、医療費や介護給付費などの社会保障費の増加も懸念されることから、高齢者をはじめ市民が健康を維持し、生き生きと積極的に社会参画できる環境づくりが必要です。

このため、行政、市民、地域、学校、団体、企業などが、それぞれの立場で主体的に参画するよう「小林市健幸のまちづくり基本方針」を定め、さまざまな取り組みを展開しています。

代表的なものとしては、歩くことで健康づくりに取り組む「健幸ポイント事業」があります。ウォーキングによる運動不足の解消とともに、健診の受診など健康づくりに取り組むことでポイントがたまって景品と交換できる事業であり、令和2年度の開始以来、参加者が年々増加しています。歩数のランキングやグラフも参照できるので、市民が競いながら楽しく

健康づくりができると好評を博しています。市内のあちらこちらでウォーキングする人を多く見かけるようになり、取り組みが浸透していることを実感しています。

現在、本市では、これらの取り組みを総合的に推進するため「健幸のまちづくり拠点施設」の整備を進めています。体育館機能や保健センター機能、子育て支援機能などを備えた複合型施設であり、令和8年の完成を目指しています。

プロフィール



小林市長
宮原義久

〔市町村合併〕平成18年3月20日、須

〔将来都市像〕みんなでなむ 笑顔あふれる「じょじょんよかとこ」小林市

〔まちの特徴〕霧島連山に磨かれた豊富な湧水が育む食と市民の笑顔があふれるまち

- ◆ 面積 562・95km²
- ◆ 人口 4万3026人
- ◆ 世帯数 2万2153世帯



木村と合併、平成22年3月23日、野尻町と合併

〔特産品〕宮崎牛、ブドウ、ナシ、メロン、マンゴー、クリ、ユズ

〔観光〕生駒高原、陰陽石、三之宮峽、すきむらんど、のじりこびあ

〔イベント〕まきばの桜まつり、すき納涼花火大会、のじり湖祭、こばやし秋まつり

公共施設の複合化により、老朽化している既存の施設を更新するだけでなく、保有数の減少も実現する取り組みであり、持続可能なまちづくりにも寄与するものと考えています。

今後も、市民が元気に笑顔で暮らせるまちづくりを推進し、市民の笑顔と魅力を高めて発信しながら「じょじょんよかとこ小林市」の実現に向けて取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。